

郷土の歴史講座 たらばる・わくわく塾

一宮神社の歴史

神武天皇が自ら祭事をした古代斎場である
神籬磐境(ひもろぎいわさか)が残る、由緒
ある一宮神社の歴史についてお話をして
いただきます。

〈日 時〉 9月5日(木)
10:00~12:00

〈講 師〉 一宮神社禰宜
波多野 正紘 氏

〈定 員〉 30名(先着順)
〈参加費〉 無料

申込み受付中

お問い合わせ・お申し込みは熊西市民センターまで ☎621-3182



講師：波多野 正紘氏
一宮神社 禰宜



質疑応答も積極的な25名の受講者

【受講者アンケート結果より】

受講者：25名(アンケート回収22名、88.0%)

- ・ 60代：6名、70代：13名、80代：3名 ・ 男性：7名、女性：15名
- ・ 満足：19名(86.4%)、まずまず2名(9.1%)、普通1名(4.5%)、
今一歩：0名、不満：0名

受講者の声(抜粋)

- ・ 一宮神社の由来や神社組織等についても非常に分かりやすかった
- ・ 身近な一宮神社のことを始め、神社一般についても良く分かった
- ・ 地域の神社を身近に感じ、これからの神社の音楽活動等も楽しみ
- ・ 秘密のベールに隠れていた部分も少し観られた感じがした
- ・ 「未来に向けて思うこと」について非常に共感した
- ・ 改めて「宮・神社」の大切さを感じた。
- ・ 歴史の部は深く広すぎて頭がついていけない。レジュメが欲しい



一宮神社



【一宮神社の一口メモ】

御祭神は「天忍穗耳命」で天照大御神の御子神。天孫降臨の瓊瓊杵尊(ニギハミコ)のお父様にあたる。

本来は天忍穗耳命が下ってくるはずだったが、折よくお子様である瓊瓊杵尊がお生まれになったので、そちらが適任であろうということで天孫降臨されたそう。

日本書紀では正勝吾勝勝速日天之忍穗耳命(マサカカツカハヒ アメノシホミノミコ)というお名前で記されており、一宮神社ではそのお名前でも祀られている。

御神徳としては、お名前に「勝」という勝利の字が3回出てくるところから勝ち運の神様と言われている。

また、「神功皇后」様と所縁があり、大陸を攻める際に洞海湾から上陸して山に登られたようで、その時の船の帆となる柱を切り出したという逸話が残っている。穂を切り出した山が「帆柱山」であり、一宮神社周辺は「皇后崎」という地名で、神功皇后様から頂いたと言われている。

神功皇后様は「応神天皇」を身ごもりながらの戦だったという。その面からも勝負に勝つという御神徳があるようだ。

「神籬磐境(ヒモギイワカ)」：古事記によると神武天皇が東征の折にこの地に滞在され、御自ら天神地祇を招いて安全と隆昌を祈願した古代斎場。一宮神社には完全に近い姿が残っている。